学会参加報告書

R21－021 吉田妃愛
学会名：日本薬学会第 144 年会
日時：2024 年 3 月 29 日~31 日

1. 参加した目的

私はこれまで今までに学会というものに参加したことがなかったため、どのようなものなのか経験したいと考えていた。そこで、学会参加奨励金制度に申請し、参加させていただいた。さらに、普段の学校生活では知ることができない専門的な医療に関する知識を少しでも多く吸収し、参加することで得られた知識を将来に活かしたいと考えたからである。

2. 学会会場における様子（発表や展示会等）

学会会場は想像していたよりも広く、研究者や薬剤師の方、学生の方など様々な方々がたくさん参加されていた。また、ポスター発表のブースだけでなく、様々な医療装置が紹介されている展示場ブース、本が売られているブース、薬学部の学生への就職相談ブースなどもあった。さらに、別の会場の大きなホールでは我々が訪れたタイミングでは免疫についての発表が行われていた。医療装置では、自動薬剤ピッキング装置「DrugStation」という自動で取り間違いなく安全に薬をピッキングできる装置や、噴霧凍結乾燥造粒ユニットという噴霧乾燥法（スプレードライ）と凍結乾燥法（フリーズドライ）のそれぞれの乾燥法の長所を取り入れた方法でフリーズドライを行う装置などを丁寧に説明してくださり、とても勉強になった。

ポスター発表では、肌の老化などの美容関係、人参栄養湯と鉄剤を併用することで副作用を抑えつつ貧血を改善させる、やさしい日本語がより良い薬学教育に繋がるなど様々なことに薬学が関係していることを知った。

3. 今回の学会に参加して得られたこと（今後活かしていきたいことなど）

初めて学会に参加したため、学会がどういうものなのか経験することができた。また、薬学が医療にどのように用いられているのか、最新の装置の説明を聞くことで知ることができた。医療従事者だけではなく、研究者や企業の方の知恵や努力の上で医療がより良くなっていると感じた。そのため、放射線技師に関する知識だけではなく、薬学やなどの様々な医療分野について学び、身に付けたい。

4. 学会参加の感想

学会へ参加する前は、難しすぎて何が何だかわからない発表をされているイメージだったが、美容についてのポスター発表のような他分野の学生でも興味が持てる題材に関する発表があるなど、想像以上に楽しかった。ポスター発表では屋木先生の発表を拝見した。ポスターだけみると難しそうで理解できるか不安だったが、説明がとても分かりやすくて、薬学に対するイメージが良い方に変わった。また、免疫に関する講演では、自己免疫についての研究が進むとアレルギーや臓器移植、がんへの免疫など自己免疫を活かした治療などが可能になるといった内容で、普通に生活していればなかなか拝見することが出来ないものであり、直接講演を聞くことができて本当によかった。